

平成24年10月25日（木曜日）

茨城新聞（日刊・21面）に掲載されました

## 牛の“爪切り”技術競う 水戸で全国大会



牛のひづめを削る技術を競う全国牛削蹄競技大会（日本装蹄師会主催）が24日、水戸市

専用の鎌を使い、牛のひづめを削る選手ら  
水戸市鯉淵町

理には欠かせない「爪切り」技術の日本一の座を目指した。

牛は、ひづめが伸びたままでは歩く際にバランスが崩れるなどストレスがたまり、牛乳や肉質の低下を招く。このため、ひづめを切る牛削蹄師が半年に1度程度、畜産農家を訪ね、ケアしている。

競技は牛の歩き方やひづめの形から牛に適

した削り方を判断する競技と実技の2種目。選手は関係者が見守る中、専用のやすりや鎌などを使い、ひづめを削っていた。

審査の結果、北海道地区代表の武田守さん(32)が優勝となる農林水産大臣賞に輝いた。関東甲信越地区代表として出場した、小美玉市の三部正宏さん(45)は競技後「うまくいかなかった」と苦笑いを浮かべていたが、4位入賞と健闘した。

（平野有紀）

茨城新聞HPに動画